

レプリカのアップグレード

Tips

レプリカが構築されている場合、マスターサーバの前にレプリカサーバをアップグレードします。

レプリカサーバからレプリカサーバを複製している場合は、マスターから最も遠いレプリカサーバから順にアップグレードします。

全サーバのアップグレードが完了するまでは、各レプリカサーバは停止したままにしてください。

手順

■ レプリカサーバでの作業

1. レプリカとマスターの同期を確認します

※サーバが複数台ある場合はマスターサーバから最も遠いサーバから順に作業します

① ジャーナルの確認

コマンド例

```
p4 pull -lj
```

正しく同期できている場合の結果例：Sequenceが同じ数値

```
Current replica journal state is: Journal 0, Sequence 1194468.  
Current master journal state is: Journal 0, Sequence 1194468.  
The statefile was last modified at: 2019/02/01 18:33:12.  
The replica server time is currently: 2019/02/01 18:33:54 +0900 JST
```

② バージョン化ファイルの確認

コマンド例

```
p4 pull -ls
```

正しく同期できている場合の結果例：転送中のファイルが0

```
File transfers: 0 active/0 total, bytes: 0 active/0 total.
```

2. レプリカサーバを停止します

コマンド例

```
p4 admin stop
```

3. レプリカサーバのチェックポイントを取得します

コマンド例

```
p4d -r <レプリカサーバのルートディレクトリ> -J journal -jd checkpoint
```

4. レプリカサーバの p4d を新しいバージョンのものに置き換えます

5. レプリカのデータベースをアップデートします

コマンド例

```
p4d -r <レプリカサーバのルートディレクトリ> -J journal -xu
```



注意

マスターサーバの作業が完了するまで、停止したままにしておいてください

■ マスターサーバでの作業

1. マスターサーバを停止します

コマンド例

```
p4 admin stop
```

2. マスターサーバのチェックポイントを取得します

※ prefix(ファイル名) は通常チェックポイントを作成する際に使用しているものと同じ prefix を使用します

コマンド例

```
p4d -r <マスターサーバのルートディレクトリ> -J journal -jc prefix
```



必ずチェックポイントを取得してください。
アップグレード中に問題が発生した場合、このチェックポイントが唯一の復旧方法になります。

3. マスターサーバの p4d を新しいバージョンのものに置き換えます
4. マスターのデータベースをアップデートします

コマンド例

```
p4d -r <マスターサーバのルートディレクトリ> -J journal -xu
```

■ サーバの起動

1. マスターサーバを起動します

コマンド例

```
p4d -r <マスターサーバのルートディレクトリ> -J journal -d
```

2. レプリカサーバを起動します

※複数台ある場合は、マスターサーバに最も近いサーバから順に起動します

コマンド例

```
p4d -r <レプリカサーバのルートディレクトリ> -J journal -d
```



参考情報

- ・ [「Helix Coreサーバ管理者ガイド: 基本」 - サーバをアップグレードする](#)